

# 歴史は繰り返す？

松本 康子

自分で考える育児を実践するには、問題を解決するコミュニケーションの力が不可欠だと考えます。

## ＜母にそっくりな私＞

長女が生まれた日本での話です。

長女を出産する前には、親としての自分なりに思い描いた育児に対するイメージがありました。ですが、実際に子どもが生まれてみると、そうは簡単にいかないことが起こってきます。

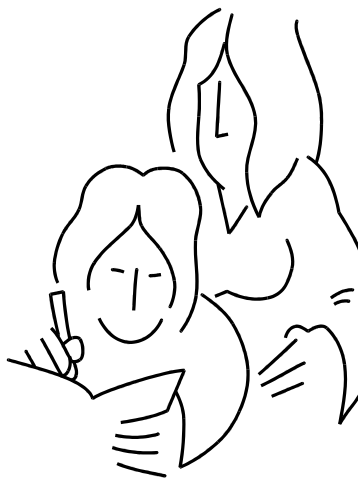
私にとっては、長女誕生で、初めての育児です。その当時、夫は1ヶ月に100時間を越す残業がざらという仕事をしており、超多忙な中にありました。育児の相談相手として、夫の助けは当てに出来そうにもありません。それで、母子ともに退院して来た後、私の実家の母が1か月間様子を見ようと、泊り込みで手伝いに来てくれました。

母の私たち達姉妹に対する「口癖」の一つが、冬になると「寒いからもう1枚着たら？」というのがあります。それで、まだ寒さの残る3月生まれの長女が風邪を引かないようにと、「もう1枚」コールが始まります。私は、また母の口癖が始まったくらいに受け取り、「大丈夫だから、いらない」と、いつものように答えてしまいます。私が言う事を聞きそうにもないと見ると、「念のために着せたほうがいいのよ」と、母はさっさと、汗をかくほどのお蚕ぐるみにします。母は、暖かそうな様子の長女を見てやっと安心し、私は（やっぱりしたいようにするのね）と、「あきらめ」ます。結局、汗を拭いたり着替えさせたりで、かえって長女が鼻水をたらす事になってしまいました。親子の間での事ですから、「それ見たことか」と私は母に遠慮なく「文句」を言い、長女が鼻かぜを引いたという事実の前に、母は何も言わずに「我慢」します。

出産までの定期検診で受けた育児指導で、「赤子の体温は大人のそれより高いから、厚着させてはいけない」と習っていたのですが、私自身、何枚着せれば乳児にとって厚着になるのか分からない上、母と私の世代では、家屋の暖房設備が

全く違うという事も考えられたのです。母のする事は、長女のためを思っている「好意」だと分かっていたのですから、もっとよく考えて話せば、もしかすると長女に鼻かぜを引かせて、苦しい思いをさせる事もなかったのかもしれませんが。（もしそう言ったとしても、「理屈っぽい！」と返されて、すんでしまうのですが。）

長女の着衣一つについてすら「口癖」「あきらめ」「文句」「我慢」の応酬ですから、お互いにコミュニケーションするなんて、ほど遠い話です。



## ＜相手が変わると、打つ手なし＞

次に、アメリカで生まれた三女の話です。

夫は自分の研究のため、週に何度かは実験室に泊り込んでいました。私一人で3人の子どもの面倒をみるのは大変になるだろう、という状況にありました。再び、夫は助け手として頼みに出来ません。そこで、1ヶ月間、夫の両親が手伝いに来てくれる事になりました。

さて、三女です。どうしたわけか、昼の3時頃の授乳が終わって1時間くらいすると、必ず泣き始めます。上二人の育児経験から、まず、オムツをチェック。飲み終わった後のゲップが不十分だったかもしれないと、再トライ。無理に背中をとんとんと叩いてみても、出ないものは出ません。他に原因が思い当たらないので、抱っこして遊んであげれば何とかなる？それでも泣き止まず、お手上げ状態です。そこで私は、「訳もなく泣いている」と解釈して、しばらく放置することにします。

私のすることを見守ってくれた両親が、居たたまれなくなって忠告をしに来ます。「母乳が足りなかったんじゃない？」と。アドバイスにしたがって、前回の授乳からあまり時間は経っていませんが、授乳します。それでもやっぱり泣き止みません。ずっと泣きどおしの三女を見過ごせない夫の両親は、